

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年3月10日～3月16日)

2020年3月18日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領, イーゴリ・セルゲエンコ大統領府長官, アンドレイ・ラフコフ国家安全保障会議国家書記と会談(3/16)

●オルタガス米国務省報道官, ポンペオ国務長官がマケイ外務大臣との電話会談において「米国企業はベラルーシへの石油供給を即座に開始する準備がある」と述べたことを公表(3/13)

●ルマス首相, ミシュスチン露首相と会談(3/11)

【ルカシェンコ大統領動静】

●発展銀行によるプレスト市医療複合施設建設事業, グロドノ臨床腫瘍予防診療所修復事業への融資案件に対する大統領指示に署名。

(3/16 大統領公式ホームページ)

●イーゴリ・セルゲエンコ大統領府長官, アンドレイ・ラフコフ国家安全保障会議国家書記と会談。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ロシアがベラルーシとの国境を閉鎖することに関して、大きな不安を引き起こすことでは無いが、注目を要するものであろう。ロシア政府の中に、誰も、ベラルーシとロシアに国境が無いと知らないとは、奇妙なことである。国境が無いため、閉鎖するものは何も無い。恐らく、ロシア政府が自国内で国境を取り決めたのであろう。それは彼らの問題だ。

・ロシア政府から公表されたのは、管理の導入だけではなく、国境閉鎖である。閉鎖は、その後その状況を抜け出すことより容易い。閉鎖後、再度開放する時が来る。開放は、そんな容易いことではない。かつてロシア・ベラルーシ間の国境を閉鎖・開放した時のことを覚えている。個人的には、再度繰り返されてほしくはない。現在のロシア政府の方々は、それを分かっているようにだ。

・ロシアは、国境閉鎖を新型コロナウイルス対策と説明した。しかし、この種の病気に対する地域的な対策は不可能であると感染医学者が述べている。ロシアの理論に辿れば、極東ロシア, シベリア, ウラル, カフカス, 北ヨーロッパ地域等, 地方毎に分けて閉鎖する

必要があるだろう。何故、ベラルーシとロシアのみ切り取ったのだろうか。

・ロシアは、新型コロナウイルス検出テスト3千個の送付を提案した。我々は、スプーン一杯の石油さえ分けてくれないロシアからの親切に啞然とした。ロシアは、ベラルーシ医療従事者の西欧方面での成功事例に気づき、支援しようとしたのだと、と判明した。ロシア政府は、国境を閉鎖せず、プレストにある連合国家の共同国境で我々を物資的、人的支援すべきであった。我々は喜んでその支援を受け入れ、管理をしていたであろう。

・重要なのは、人々と経済が苦しまないことである。ロシア政府はどのように考えているのだろうか。年間、110 百万トンの貨物が両国間を行き来しているが、これらは、どのように輸送されるのであろう。

・ベラルーシに住むロシア人, ロシアに住むベラルーシ人はどうするのであろうか。何故このような決定ができたのであろうか。国境閉鎖は、政府レベルではなく、大統領レベルで決定されるべき事項であろう。依然、露首脳と連絡は取れていないが、電話会議が予定されている。もしかして、彼らはすでに新憲法で生きているのか。誰が知ろうか。

(3/16 大統領公式ホームページ)

●農業・食糧大臣にイヴァン・クルプコ氏を指名。

(3/16 大統領公式ホームページ)

●内政・治安に関するカラエフ内務大臣の報告聴取。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・警察無しで国家に安定を保障することはできない。我々をぐらつかせたいと考える者は減っていない。残念ながら、その希望を表明する者の多くは、我々の国民である。全て上手くいっていないが、政権に手を出し、社会を分離させ、悪化させようとしている。彼らは頃合いを見計らっている。私は、彼らの表明を、インターネットやマスメディアで読むこともある。そのため、国家の安定のために警察に対し大きな役割を割り当てている。

・新型コロナウイルスについて、貴大臣が同ウイルス感染した疑いがあると聞いて驚いた。(当館注:カラエフ大臣子息は、軍事大学で中国語を専攻しており、ベラルーシにおいて新型コロナウイルスの拡大が判明した際に、同子息が中国から帰国したところ、カラエフ氏は自主隔離を行った)中国人は、素晴らしい。彼らは最も効率的である。彼らの経験から、免疫の弱い者、高齢者は用心する必要があると分かった。

・新型コロナウイルス対策においても警察は欠かせない。我々は、人々、特に高齢者に対し、助言し、支援する必要がある。

(3/13 大統領公式ホームページ)

●電気自動車(EV)使用促進の大統領決定に署名。

同決定には、EV 保有者の通行許可発行料の支払いを免除、個人使用のためのEV 輸入時の消費税免除、購買時に支払った消費税の還付措置、特定区域における駐車料の免除(2026年1月まで)、EV およびEV ステーション製造業者に対する優遇税制措置が規定されている。

(3/12 大統領公式ホームページ)

●医療制度に関するカラニク保健大臣の報告聴取。

1 輸入医療機材、医薬品の価格について。

「ル」大統領:

・医療機材、医薬品が一部つり上げられた価格で輸入されていた。我々は、それらの最安値と最高値を知っておくべきである。そして、それらよりさらに安い価格で取り組むべきである。この問題の進捗はどうか。

「カ」大臣:

・医療機材については、貴大統領の感覚が正しく、価格は合理的で無かった。現在、我々は、製造業者が直接的に我々の市場に参画できるよう、透明性のある購入システムの構築、マーケティングや製造業者との協力の改善に積極的に取り組んでいる。

2 新型コロナウイルスについて。

「ル」大統領:

・我々は、この時期を穏やかに通り過ぎることができた。安心してはならない。しかし、混乱を起こす根拠は無い。投機熱を起こし、様々な薬やマスクを買い漁るべきではない。現在、複数の国内製造者がマスクを大量製造している。WHO や世界の医師が述べているよう、人々は、周囲に移すリスクを減らすため患者がマスクをつけるべきである、と理解している。しかし、念のためにマスクをつけ体という人々もいるであろう。それは反対しない。ただ、混乱は不要である。

3 その他

「ル」大統領:

・新型コロナウイルスへの警戒感はあるものの、インフルエンザ等の他の感染症の感染率は昨年対比、減少した。ウイルス対策において、ある国の保健が、商売の目的を追求するのではなく、人々のために機能することが大切である。皆が無事で済むことを願う。気を緩めてはいけない。手と顔を洗う必要があると理解すべきである。

・中国人には感謝すべきである。彼らは、我々から何も隠していない、全ての情報を開示し、助言してくれる。なぜならば、彼らは、この問題をどの国の人々よりも知っており、多く取り組んできた。彼らは、助言や推奨を通じて、我々を健全に支援している。

(3/12 大統領公式ホームページ)

【外交】

●ルマス首相、ミシュステン露首相と電話会談

両者は、二国間貿易・経済協力、新型コロナウイルスの拡大状況について議論した。両者は、これらの問

題や相互利益に関連する問題の連絡を維持することに合意した。

(3/14 ベラパン通信)

●**オルタガス米 국무省報道官, ポンペオ 国務長官がマケイ外務大臣との電話会談において「米国企業はベラルーシへの石油供給を即座に開始する準備がある」と述べたことを公表。**

(3/13 ベラパン通信)

●**マケイ外務大臣, ポンペオ米 国務長官と電話会談。**両者は, 2 月初旬の米 国務長官のベラルーシ訪問の結果について議論した。

(3/13 ベラパン通信)

●**ルマス首相, ミシュスチン露首相と会談**

ルマス首相の発言要旨は以下の通り。

・近年, 二国間の貿易高は, 年間 350~360 億ドルで安定している。2020 年 1 月の貿易量は減少した一方, 貿易不均衡も以前に比べ減少した。

・原油価格の世界市場の状況は, ベラルーシと露債の立場を近づけ, 定量的な不一致を減少させている。

・統合プロセスの枠組みで我々には議論すべき問題が非常に多い。私は, ユーラシア経済連合加盟国の活動の多くが, どれだけロシアとベラルーシが姿勢を近づけられるかに, 掛かっていると考えている。

・両国大統領は, 戦略と統合に関する書類策定の課題を課した。そして, 両国の第一副首相は多くの仕事をした。残るは, 幾つか係争中の問題である。4 月 10 日ミンスクで予定されているユーラシア経済連合の評議会合意し, ユーラシア経済評議会にて国家首脳に提出するため, 今日それらの問題を議論し, 前進させたい。

(3/11 ベラパン通信)

●**ルマス首相, メドページェフ露国家安全保障会議副議長と会談**

ルマス首相の発言要旨は以下の通り。

・我々の会談依頼に素早く応じて頂いたこと, 感謝す

る。ロシアの外交方針策定と実行への参加は, 貴副議長の職務に入っているであろう。そのため, ベラルーシは, 現在もなお, 貴副議長の関心に残り続けるだろう。我々は, 疑いなく, 友人であり, 隣人であり, 兄弟である。

・本日, ロシア政府と交渉をした。貴副議長が過去二国間の議題に深く入り込んでいたことを考慮し, 貴方も幾つかの議題つき, 議論できればと考える。私にとって協力の観点から貴副議長の意見は非常に重要である。

(3/11 ベラパン通信)

●**マケイ外務大臣, オリヴァー・ヴァルヘイ欧州委員会欧州近隣政策, 拡大交渉委員と電話会談。**

両者は, 東方パートナーシップの枠組みにおける協力や, 共同の協定・法制度の発展を含めた相互協力の喫緊の問題に関する意見交換をした。

(3/10 ベラパン通信)

経済

【対外経済】

●**ベラルーシ, 2020 年 1 月~2 月 GDP 成長率は, 昨年同期対比-0.6%。**

なお, 2020 年 1 月単年度の GDP 成長率は-1.9%であった。

(3/16 ベラパン通信)

●**3 月ベラルーシは 100 万トンの石油を各供給元から購入予定。**

・ロシアのサフマルグループは 3 月, 約 40 万トンのロシア産石油をベラルーシに供給予定。うち, 30 万トン「ドルジバ」パイプライン経由で供給済み。残り 10 万トンは鉄道輸送。

・ロシア石油企業 5 社は 3 月, 約 20 万トンのロシア産石油をベラルーシに供給予定。パイプライン, 鉄道により輸送予定。いずれの企業もこれまでベラルーシへの供給実績は無い。

・アゼルバイジャン国営石油企業は 3 月, 約 25 万トンの石油をベラルーシに供給予定。タンカーでウクライ

ナ・オデッサ港まで輸送し、その後パイプラインでモズィル製油所へ供給する。

・その他、リトアニア・クライペダ港経由でロシア産石油 16 万トン調達済み。

(3/10 ベラパン通信)

●ベラルーシ・中国共同自動車工場「ベルジー」、中国からの部品供給不足発生。

スヴィデルスキー「ベルジー」代表は以下述べた。

・吉利汽車(当館注:中国側の「ベルジー」共同創業企業)では、3月2日より全作業員が出勤しているが、一部他の部品工場で人員不足が発生している。

・幸いなことに3月6日から8日にかけて第一ロットが輸送された。14日～18日後に受領予定である。完全な供給回復は4月中旬ごろと言われている。部品の在庫が一部あるため、稼働停止とならないことを期待している。次のロットが無事到着すれば、正常化していくだろう。しかし影響は深刻である。いくだろう。しかし影響は深刻である。

・為替変動があると、我々は難しくなる。現状、昨年と同価格で耐えているが、我々の努力は無限では無い。昨今の出来事は全て製品の原価、そして販売価格に

に影響が出るであろう。

(3/10 ベラパン通信)

●ベラルーシ林業コンツェルン・ベルレスプロム、2020年1月の輸出量、昨年同期対比、10%増。

(3/10 ベラパン通信)

新型コロナウイルス

●ベラルーシ国内の新型コロナウイルス患者数状況。

3月16日時点で、ベラルーシ国内において確認された新型コロナウイルス陽性が確認された患者数は36名。うち3名は退院済みであり、3名は退院に向けて準備している。

(3/16 保健省発表)

●ロシア、ベラルーシとの国境閉鎖へ。

新型コロナウイルス拡大対策評議会を率いるミシュス

チン露首相は、ロシアとベラルーシ間の移動のための国境を閉鎖する旨発表した。ベラルーシ外務省、国家国境委員会は、国境閉鎖に関するロシアからの通知は未だ受領していないとベラパン通信に述べた。アナトリー・グラス外務省報道官は記者会見で「現時点で、本件に関する正式な情報は一切無い」と公表した。アントン・ブィチコフスキー国家国境委員会公式代表は「マスメディアに出た情報以外、持ち合わせていない。どのように、そして、どのような手段で閉鎖されるのか、誰に対して閉鎖されるのか、あるいは、開放されるのか、現時点では言えない。ベラルーシからロシアに向かう方向に、ベラルーシの国境警備隊はいない。今のところ、これについて何らかの決定も変更もなされていない。」と述べた。

(3/16 ベラパン通信)

●ラトビア、新型コロナウイルス対策のための外国人入国禁止に関連し、国際鉄道の運休を決定。

同決定による運休・一時停止の対象となる鉄道は、キエフ～リガ(31号/32号:キエフ発3月16日以降、リガ発3月17日以降)、ミンスク～リガ(31号/32号:3月17日以降)、ミンスク～リガ(87号/88号:ミンスク発3月18日以降、リガ発3月19日以降)である。

(3/15 ベルタ通信)

●リトアニア、新型コロナウイルス対策のための外国人入国禁止に関連し、国際鉄道の運休を決定。

同決定による運休・一時停止の対象となる鉄道は、ミンスク～ビリュニユス(801号/802号:3月21日以降)、ビリュニユス～ミンスク(803号/804号/807号/808号:3月16日以降)、ミンスク～ビリュニユス(805号/806号:3月16日以降)、ミンスク～ビリュニユス(809号/810号:4月27日以降)、ゴメリ～カリーニングラード(301号/359号、360号/100号:6月5日以降、6月6日以降)である。

(3/15 ベルタ通信)

●ポーランドの新型コロナウイルス対策の国境閉鎖に伴うベラルーシ国民の同国入国の特別措置。

ポーランドは、すでに3月15日夜以降、10日間(延長あり得る)に亘りベラルーシとの国境を閉鎖した。ポーランドの永住権を有するベラルーシ国民は、特別の国境移動のために開設された地点を経由して入国が可能であるが、入国後、14日間の検疫が必要となる。

(3/15 Tut.by 通信)

●**ポーランド、新型コロナウイルス対策に関連し、国際鉄道を運休。**

3月15日以降、ポーランド～ベラルーシ間の鉄道が一時停止される。一時停止対象となる鉄道は、ブレスト～ワルシャワ(125号/126号, 127号/128号), グロドノ～クラコフ(303号/304号), ブレスト～テレスポリ(119号/120号, 121号/122号, 123号/124号)なお、ポーランドは、3月15日以降10日間、空路の国際線を一時運休し、外国人の入国に対して国境を閉鎖している。

(3/14 ベラパン通信)

(了)